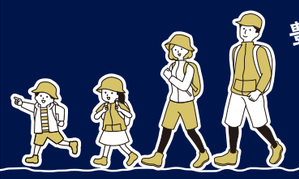
古墳　磐座　遺跡　パワースポット

御領の山

GORYO-no-YAMA ROUTE MAP

ルートマップ



豊かな自然と
古代ロマンがあふれる
御領の山へGO!

福山城築城400年記念事業
神辺町観光協会

御領の山　おすすめ散策コース

御領の山満喫コース
山歩き好きなの方におすすめ!
〈スタート〉御領駅 → 齋神社（荒神社） → 7 下御領第13号古墳 → 5 古墳の丘 → 6 八丈岩
□御領駅→八丈岩／約2.5km（徒歩約60分）

車でいろいろコース
ドライブで色々楽しめます!
〈スタート〉P 堂々公園 → 2 堂々川砂留群 → P 堂々公園 → 3 硯岩・墨壺岩・筆置き岩 → 7 下御領第13号古墳 → 5 古墳の丘 → P 西登山口 → 6 八丈岩
□堂々公園駐車場→西登山口駐車場／約3km（車で約8分）
□西登山口駐車場→八丈岩／約500m（徒歩約15分）

気軽にハイキングコース
自然を楽しみながら、家族みんなでハイキング!
〈スタート〉P 四季の森 → 6 八丈岩
□四季の森駐車場→八丈岩／約1km（徒歩約30分）

地図中の 1 ～ 12 と A B の詳細は、裏面をご覧ください。

まだまだあります! 神辺町の みどころ紹介

廉塾ならびに菅茶山旧宅
【国の特別史跡】

江戸時代の朱子学者・菅茶山が郷学のためにつくした塾舎です。ここでは全国から常時20人程の塾生が学んでおり、後に「日本外史」を著す頼山陽も塾頭をしていました。講堂・寮舎・居宅は現在もなお旧観を維持し、珍しい竹を使用した意匠廊下や方円の手水鉢など数寄屋風情を色濃く遺しており、当時をしのばせてくれます。

〈ガイド常駐〉土・日・祝／10:00～16:00
※平日および団体は1週間前までに要予約（有料）

葛原邸

葛原しげるの生家。教育者・童謡詩人であった彼は3000篇とも言われる童謡とともに全国約400校の校歌の作詞を手がけています。♫ぎんぎんぎらぎら夕日がしずむ♫名曲「夕日」は『いつもニコニコピンピン』をモットーに、ニコピン先生の愛称で親しまれた葛原しげるの代表作です。葛原邸は、しげるの祖父で琴の名手として著名な葛原勾当が設計しました。

〈ガイド常駐〉土・日／10:00～16:00 〈週中茶屋開催〉水／10:00～15:00
※平日および団体は1週間前までに要予約（有料）

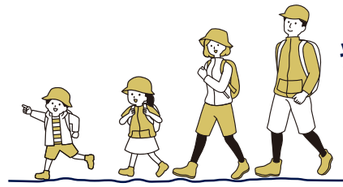
福山城築城400年記念事業
神辺町観光協会
〒720-2123 広島県福山市神辺町川北948-1（神辺町商工会内）
TEL:084-963-2230　FAX:084-963-5258
URL:http://www.kannabe.net
神辺町観光協会
HP

古墳　磐座　遺跡　パワースポット

御領の山

GORYO-no-YAMA ROUTE MAP

ルートマップ



豊かな自然と
古代ロマンがあふれる
御領の山へGO!

備後を代表する古刹

1 備後國分寺

天平13(741)年に聖武天皇が発した国分寺建立の詔によって建立された全国66ヵ国の官寺の一つ。発掘調査で金堂・塔・講堂・南門・築地塀の跡が確認され、法起寺式伽藍配置であったことが分かっています。塔は七重で、基壇の規模から高さが60m以上と推定。中世の戦乱で焼失し、近世には堂々川の氾濫で流失。元禄7(1694)年に福山藩主・水野勝種侯が大旦那となり、本堂が再建されました。現在の境内南側の参道沿いに古代の伽藍跡の石碑があります。

地図 A-3

いにしえの土木技術に感動

2 堂々川砂留群

彼岸花

ホタル

1640年代に中条東山地区の大原に築造された溜池が延宝元(1673)年に決壊、土石流が発生して63名の命を奪いました。芦田川の小支堂々川には1700年代から石積の砂防堰堤(福山藩では砂留と呼ぶ)が16基も築かれました。最大の6番砂留等の中流域8基が2006年8月に国の登録有形文化財に登録。現在でもこの砂留群のほとんどが機能し、下流の住民や田畑を守っています。堂々川ではボランティア団体がホタルを保護し、彼岸花を小学生たちと植えて観光地に育て上げました。

地図 A-2

書道具3点セットの巨岩

3 硯岩・墨壺岩・筆置き岩

御領山の西部にあり、そこからは「穴の海」があったとされる神辺平野が眺望できます。江戸後期の儒学者・菅茶山(かんちゃざん)が著した『福山志料』に登場し、昔から不思議な岩として知られていました。古代の祭祀遺跡の可能性を指摘する専門家もいます。

地図 A-2

五穀豊穣の神様!?

4 狐岩

御領遺跡に顔を向ける狐の姿をした巨岩。狐は五穀豊穣の神とされています。この岩も「福山志料」に登場し、古代の祭祀遺跡の可能性があります。古代の御領の人々も、この岩にお祈りをしていたのかもしれません。

地図 A-2

見渡す限り古墳!

5 古墳の丘

植林事業のために伐採整備された斜面に14基もの横穴式石室が姿を現しました。これがきっかけとなり、地元市民グループによる御領古墳群の本格的な分布調査が行われ、約240基からなる御領古墳群の全貌が明らかになっていきました。古墳の丘の斜面は御領遺跡に向いており、御領古墳群が御領遺跡との関係で築かれていることが良く分かる場所です。その後、植林したヒノキが生長して、丘の麓からは石室がズラリと並ぶ様子は一望できなくなりました。個々の石室を見学しながら丘の上に出ると、御領遺跡のある平野を望むことができます。

地図 B-2

御領の山のシンボル&パワースポット

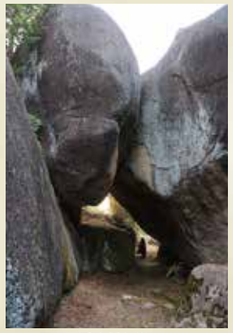
6 八丈岩

御領の山のほぼ中央・標高234mの八丈岩山があります。風化によって巨大な花崗岩があちこちに露出し特異な景観を醸し出しています。八丈岩は周囲が8丈(約24m)もある石舞台状の岩で、大きな足形の凹みとともに鬼伝説が語り伝えられています。古くは八龍岩と呼ばれ、ここから龍が昇天したという伝説もあります。周辺にも奇怪な形から名前のついた大岩が20個余りあります。近世には大巌(おおいわ)大明神や西国三十三霊場が祀(まつ)られ、磨崖仏(まがいぶつ)が幾つも彫られています。眺望は大変素晴らしく、神辺平野から瀬戸内の島々、天気が良ければ四国山嶺も望めます。興味深いのは、古墳の多い御領山の中で八丈岩周辺には何故か古墳がほとんどないことです。御領古墳群を造った御領遺跡の先人達も、八丈岩山は神の山として敬まい、そこに人を葬(ほうむ)ることを憚(はばか)ったのかもしれません。

地図 B-2

大亀岩・鯨岩・座禅岩

大亀岩・鬼の門



千人隠れ岩

御領で最大の横穴式石室

7 下御領第13号古墳

御領古墳群で最大の横穴式石室を有します。棺を納める玄室(げんしつ)は長さ6.2m、幅2.4mで県内屈指の床面積を誇ります。墳丘は径20mほどの円墳と思われます。玄室内は半ば埋もれていますが、石室内に入り巨大な奥壁の鏡石や天井石を見学できます。

地図 A-2

車の中から見学OK!

8 上御領中組古墳群

約60基の古墳群で、その内の8基が道路沿いの斜面に現出しており、車に乗ったままでも横穴式石室を見学できます。

地図 B-2

巨大な石材が圧巻!

9 上御領中組第40号古墳

壁面が平滑に整えられた終末期古墳。墳丘は方墳とみられます。石室の大きさは長さ8.2m、幅1.85m、高さ1.8mで、巨大な石材は圧巻です。

地図 B-2

広島県最古級の前方後円墳

10 大東大仙山古墳(おおひがし だいせんさんこふん)

備後・備中の国境の山頂にある全長約47mの前方後円墳で、後円部上に大仙神社が建っています。前方部が低短・バチ形の古墳時代初頭の特徴が見られます。未調査で葺石(ふきいし)や埴輪(はにわ)は確認されていません。周辺の尾根には弥生後期の土器が散布する前方後円形の地形が複数確認されていることから、大東大仙山古墳も弥生時代の築造の可能性もあります。いずれにせよ、広島県最古級の前方後円墳になります。

地図 C-1

奈良原で最大の石室

11 奈良原第5号古墳

幅・高さ共に2mの古墳群中最大の石室で、壁は巨石を立てて用いた、古墳時代後期の中でも最終段階の構造です。古墳群中唯一の片袖式の横穴式石室です。

地図 B-1

国境に並ぶ不思議な巨岩

12 お月さん(陰陽石)

備後・備中の国境の尾根上に「国界石(こっかいせき)」と呼ばれる大きな岩が5つカシオペア座状に並んでおり、そのうちのひとつが「お月さん」と呼ばれています。半円状の巨岩に縦の割れ目があり、それが備後・備中の国境とされており、備中側に三日月と月天菩薩が陰刻で、備後側に弘法大師像が陽刻で彫られ、陰陽石になっています。その背後にある「遥拝石」に立つと、冬至の日に陰陽石の割れ目から太陽が昇るのを拝めます。

陰陽石の割れ目から昇る冬至の朝日

地図 B-1

A 御領古墳群

御領古墳群は国道313号線北側の岡山県境から堂々川までの丘陵に分布する古墳群の総称で、東から大東(おおひがし)・張田(はりだ)・奈良原(ならばら)・上御領中組・八丈岩・上御領下組・下御領・法童寺・表山・国分寺裏山の10の古墳群からなっており、東西約3km、南北約1.5kmの山中に約240基が確認されています。

その内、約220基が古墳時代後期の6世紀後半～7世紀前半に造られた横穴式石室を埋葬施設とする直径10～20mの円墳または方墳です。同時期の群集墳(ぐんしゅうふん)としては中国地方以西で最大規模とみられるだけでなく、昭和3年発行の『御野村郷土史』に、かつて870基以上の古墳があったが、砂留(すなどめ)の築造で古墳の石が転用され、多くが破壊されたことが記されており、全国最大規模の群集墳が存在した可能性があります。

2017年には、古墳時代初頭(3世紀後半～4世紀初頭)に遡る可能性がある前方後円墳・大東大仙山古墳(全長約47m)や、弥生時代後期の土器が散布する前方後円形の地形が複数確認され、前方後円墳発生に深く関係した地域である可能性も浮上しています。

B 御領遺跡

御領遺跡は神辺町御領地区の平野部で発見された東西約1.6km、南北約1.4kmという全国最大級の面積を誇る広大な古代の集落遺跡です。縄文後期～中世の遺構が確認されており、弥生後期～古墳時代前期が最盛期と考えられます。縄文後期の住居跡、農耕具、人工水路、弥生前期・中期の環濠のほか、弥生後期後葉の土坑からは大型準構造船と考えられる船絵が描かれた伊予産とみられる土器をはじめ、山陰・山陽・四国北部など各地から持ち込まれた土器がまとまって出土し、近くの竪穴住居跡からは朝鮮半島産の土器も出土しています。弥生終末～古墳初頭頃には、出現期の前方後円墳祭祀に使われる加飾壺が多く出土しており、ヤマト政権勢力拡大の拠点的な集落であった可能性があります。

古代、神辺平野東部には「吉備穴国(きびのあなのくに)」があったと伝わり、御領遺跡はこの吉備穴国の中心部と考えられます。また周囲で確認されている前方後円形の墳墓は吉備穴国を治めた首長墓と考えられ、数百基の群集墳の存在は横穴式石室が家族墓であることから、御領遺跡が相当な人口を擁する古代都市であったことを物語っています。

御領遺跡・発掘現場

船絵線刻土器